

## 第1章 省CO<sub>2</sub>先導プロジェクトの動向に関する基礎分析

---

サステナブル建築物等先導事業（省CO<sub>2</sub>先導型）は、平成20年度に住宅・建築物省CO<sub>2</sub>推進モデル事業として創設されてから、200件を超えるプロジェクトが採択されてきた。

平成29年度の事業完了により制度創設から10年が経過し、その間、中小規模建築物部門や戸建特定部門、LCCM住宅部門など、特定分野を支援する部門が設けられるほか、省エネ・省CO<sub>2</sub>のみならず、非常時の機能維持、健康性や知的生産性の向上など、あらたな価値を創造する取り組みを積極的に評価するなど、先導性に関する評価の考え方も随時見直しがなされている。

ここでは、過年度の採択事例について、平成20～29年度の採択事業を対象に先導的省CO<sub>2</sub>プロジェクトの特徴について基礎的分析を行った。

## 1-1 先導的省CO<sub>2</sub>プロジェクトの提案動向

### 1-1-1 分析方針

住宅・建築物省CO<sub>2</sub>先導事業（平成20～26年度）及びサステナブル建築物等先導事業（省CO<sub>2</sub>先導型）（平成27～29年度）にて採択された合計224事業<sup>注</sup>について、下記のプロジェクト概況を分析し、提案動向を把握する。

- ①採択事業の概況（募集回ごとの採択概況）
- ②採択事業全体の特徴（建物用途、対象地域、規模、環境性能の特徴）
- ③プロジェクト動向（年度別の変遷：建物用途、対象地域、規模、環境性能）

注）一般部門及び中小規模建築物部門を対象とし、戸建工務店対応事業、戸建特定部門、特定被災区域部門は分析対象から除く。

### 1-1-2 採択事業の概況

平成20～29年度の募集回ごとの採択事業について、①建築種別（非住宅・住宅）、②事業種別（新築・改修・マネジメント・技術の検証）に採択件数を整理したものが、図1.1.1～1.1.2である。

建築種別の採択件数は、非住宅が計139件、住宅85件となっている。年度・募集回ごとに件数は変動するが、非住宅の採択件数は概ね10件前後となっている。住宅は非住宅と比べて年度・募集回での変動が大きく、採択がない募集回も見られる。

事業種別の採択件数は、新築が計173件、改修が計22件、マネジメントが計23件、技術の検証が計6件となっている。新築事業は例年一定数の採択があるが、改修事例や検証事例は近年の採択件数が少なくなっている。

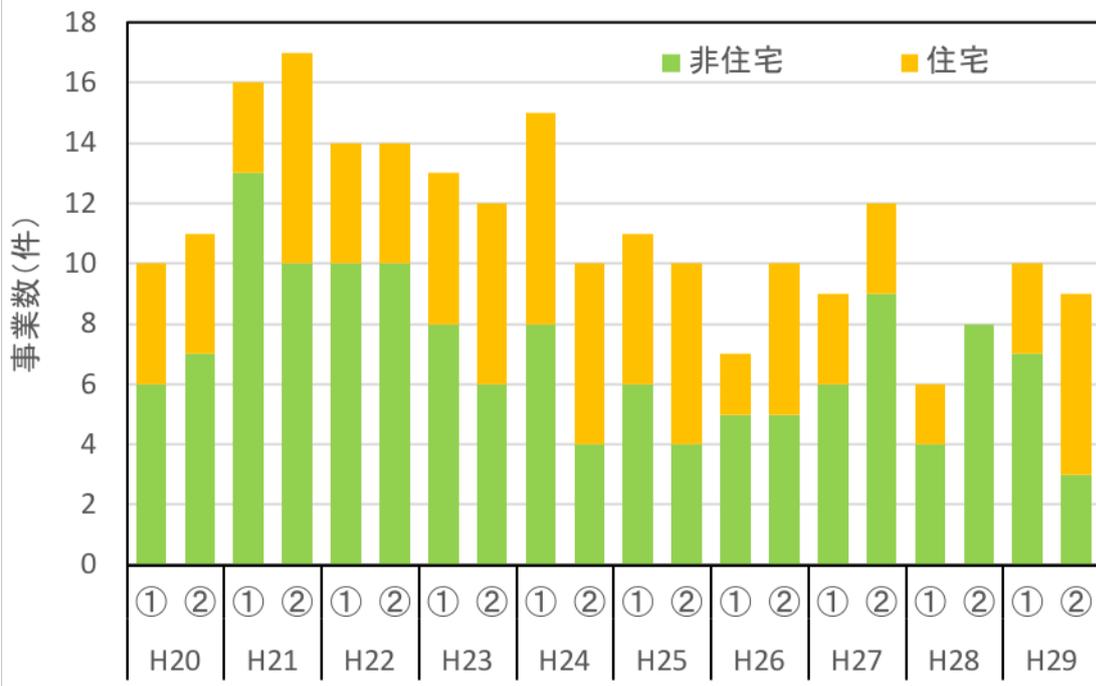


図 1.1.1 募集回ごとの建築種別採択件数

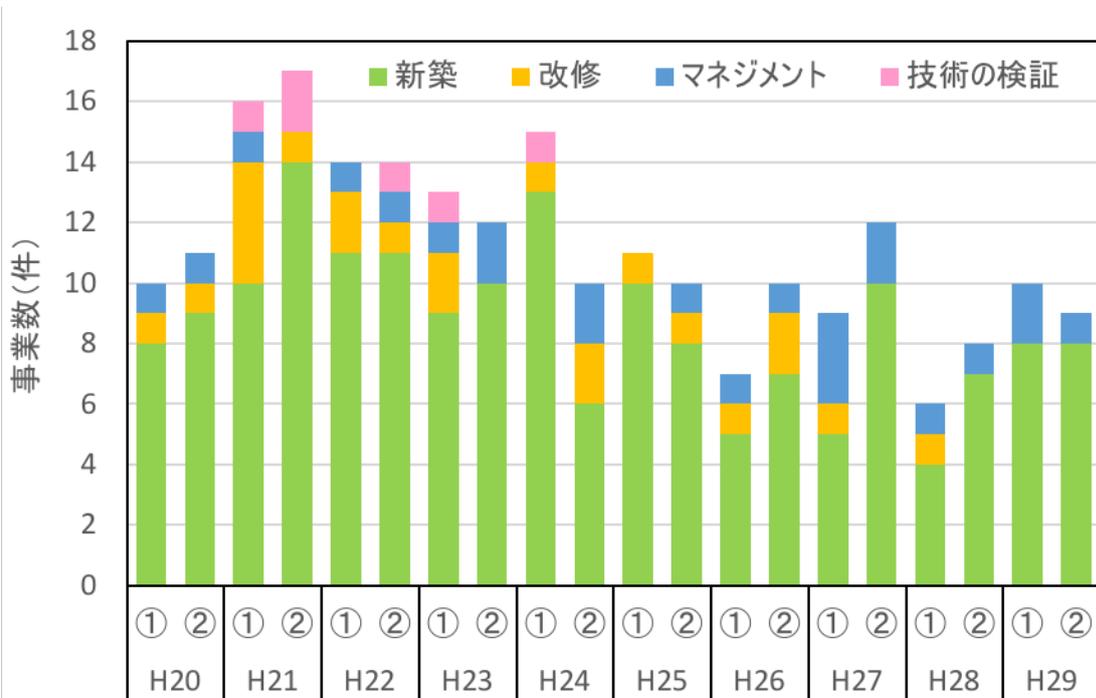


図 1.1.2 募集回ごとの事業種別採択件数

### 1-1-3 採択事業全体の特徴

平成20～29年度の採択事業全体について、①建物用途、②対象地域、③建物規模の特徴を把握する。

図1.1.3は、事業種別（新築、改修、マネジメント、技術の検証）に、①建物用途別（主用途）、②対象地域別、③建物規模別（非住宅のみ）の採択件数を整理したものである。

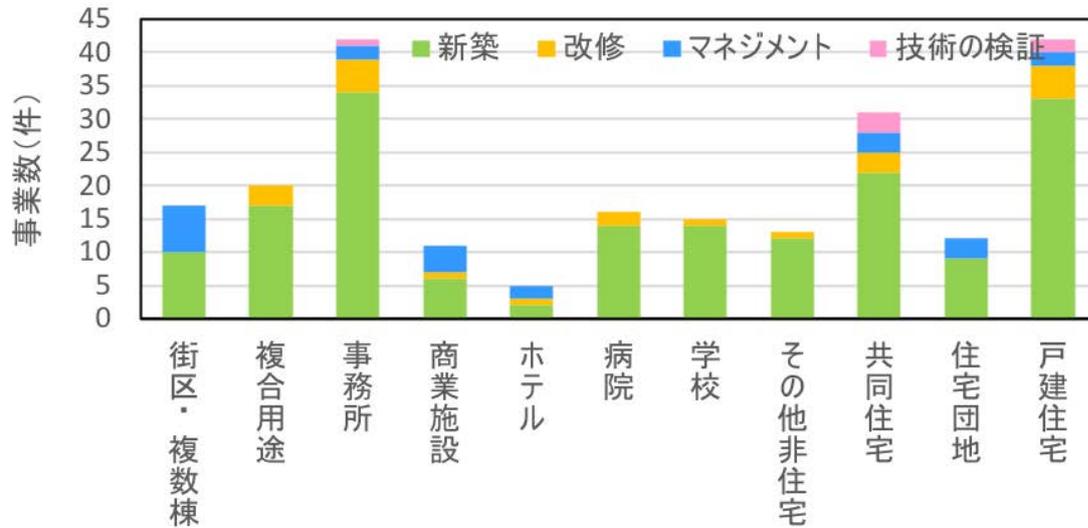
①建物用途別に見ると、全体としては事務所、戸建住宅の件数が多いものの、幅広い建物用途が採択されている。事業種別件数について、建物用途別の傾向はあまり見られないが、街区（複数棟）においてマネジメント事例の割合が高くなっている。これは地域や街区を対象とした面的なエネルギー供給・管理に取り組む事例が該当する。なお、その他非住宅は、研究所、飲食店、水族館、美術館、福祉施設などが含まれる。

②対象地域別に見ると、三大都市（東京23区、名古屋市、大阪市）の採択件数が67件で全体の約30%を占める。北海道・東北、中国・四国がやや件数が少ないものの、採択事業は全国に広がっている様子がうかがえる。なお、全国との区分は、戸建住宅において、不特定多数の地域を対象としたシステム提案の取り組みである。

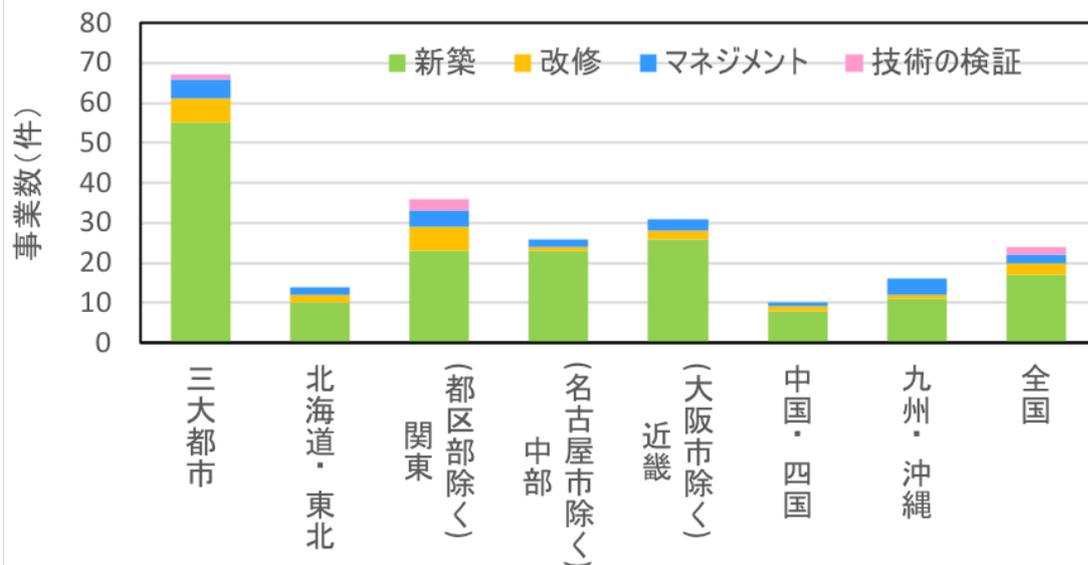
③非住宅事例について、建物規模別に見ると、1万㎡未満の事例が41件で最も多く、全体の約30%を占める。次いで、10万㎡以上の巨大プロジェクト、1～3万㎡未満のプロジェクトの件数が多いが、採択事例の規模も様々である。

図1.1.4は、新築事業を対象として、環境性能としてCASBEE評価結果によるBEEランク別に、①建物用途別（主用途）、②対象地域別、③建物規模別（非住宅のみ）の採択件数を整理したものである。本事業では、新築提案においてBEEランクB+以上が求められているが、全体にSランクの占める割合が高い。建物用途では共同住宅、対象地域では北海道・東北において、Aランクの比率が若干高くなっており、規模では1万㎡未満でB+がみられた。

① 建物用途（主用途）別



② 対象地域別



③ 建物規模別（非住宅）

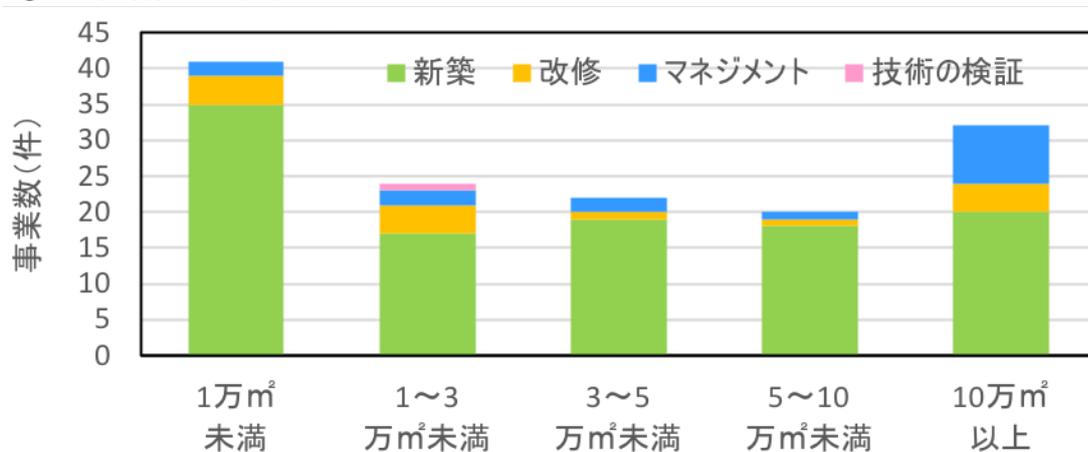
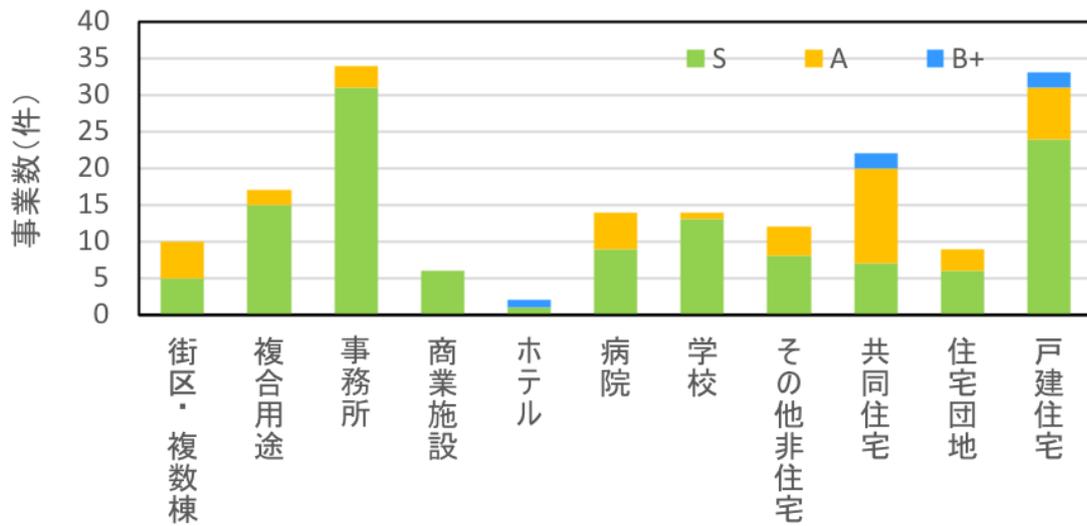
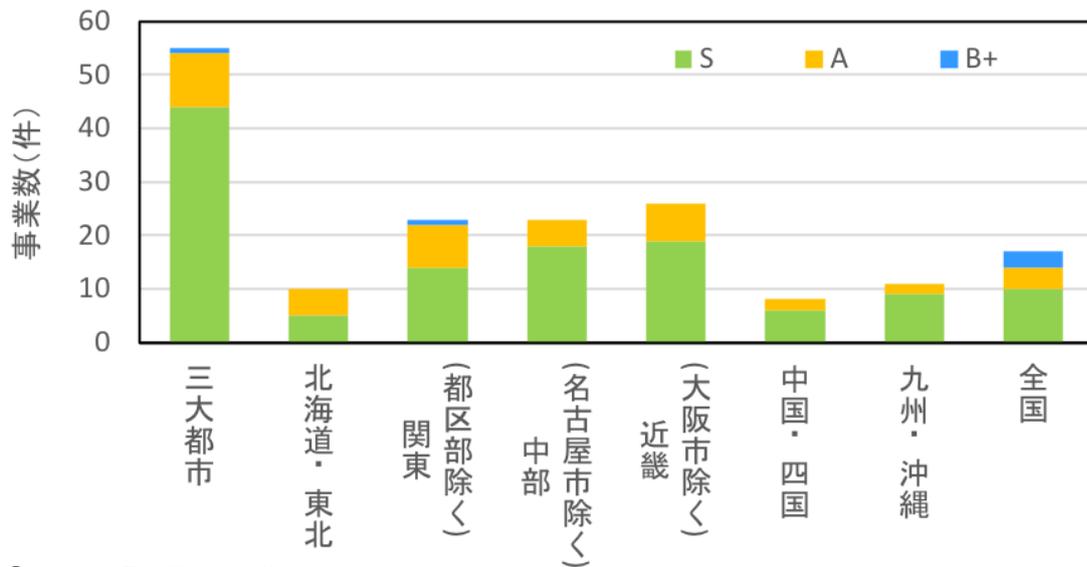


図 1.1.3. 全採択事業における事業種別・各種区分別件数

① 建物用途別（主用途、非住宅・住宅）



② 対象地域別（非住宅・住宅）



③ 建物規模別（非住宅）

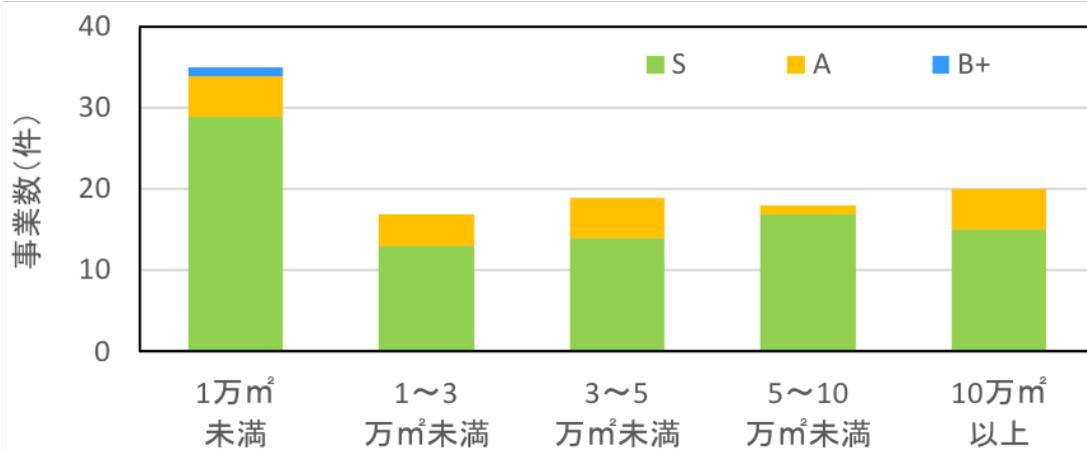


図 1.1.4. 全採択事業における環境性能（CASBEEランク）別・各種区分別件数

#### 1-1-4 プロジェクト動向

平成20～29年度の採択事業について、①建物用途、②対象地域、③建物規模、④環境性能の経年変化を整理し、プロジェクト動向を把握する。

図1.1.5～1.1.6は、非住宅と住宅に分けて、建物用途（主用途）別の年度別採択件数を示したものである。非住宅について、制度創設当初は、街区（複数棟）を対象としたプロジェクトの件数がやや多いが、年度別に見た建物用途の偏りは特に見られない。また、住宅は年度ごとの件数の差が非住宅と比べて大きく、建物用途ごとにも年度別に採択件数の差が大きい。

図1.1.7～1.1.9は、対象地域別（非住宅・住宅）、建物規模別（非住宅）、環境性能別（非住宅・住宅、新築のみ）に、年度別採択件数を示したものである。

対象地域別では、近年は三大都市（東京23区、大阪市、名古屋市）以外におけるプロジェクトの割合が若干高い年も多い。

建物規模別では、中小規模建築物部門が創設された平成22年度には1万㎡未満の事例が多く採択されているが、規模による年度別の差は小さい。また、近年は10万㎡以上の大規模のプロジェクトは制度創設当初と比べるとやや件数が少なくなっている。

環境性能として、CASBEEのBEEランクは、制度創設当初にはB+での採択事例が見られるが、近年はB+での採択事例はない。また、Sランクと比べて件数は少ないが、Aランクの事例は例年一定の件数が見られる。

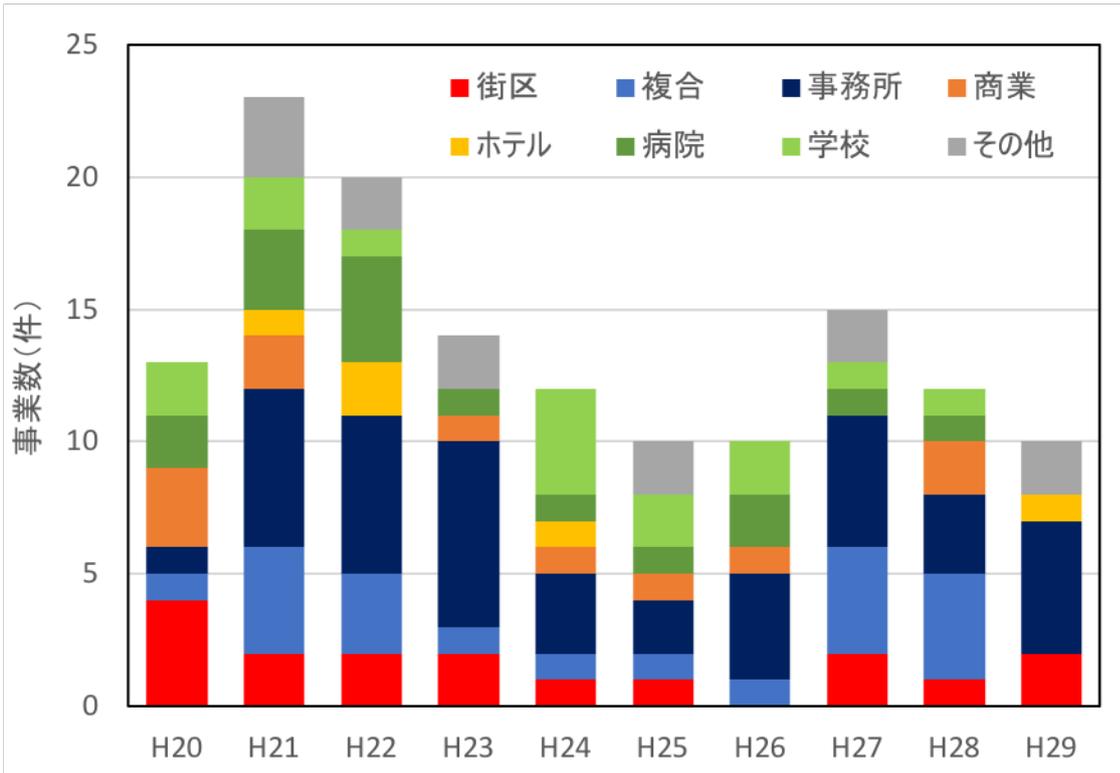


図 1.1.5 建物用途別の年度別採択件数（非住宅）

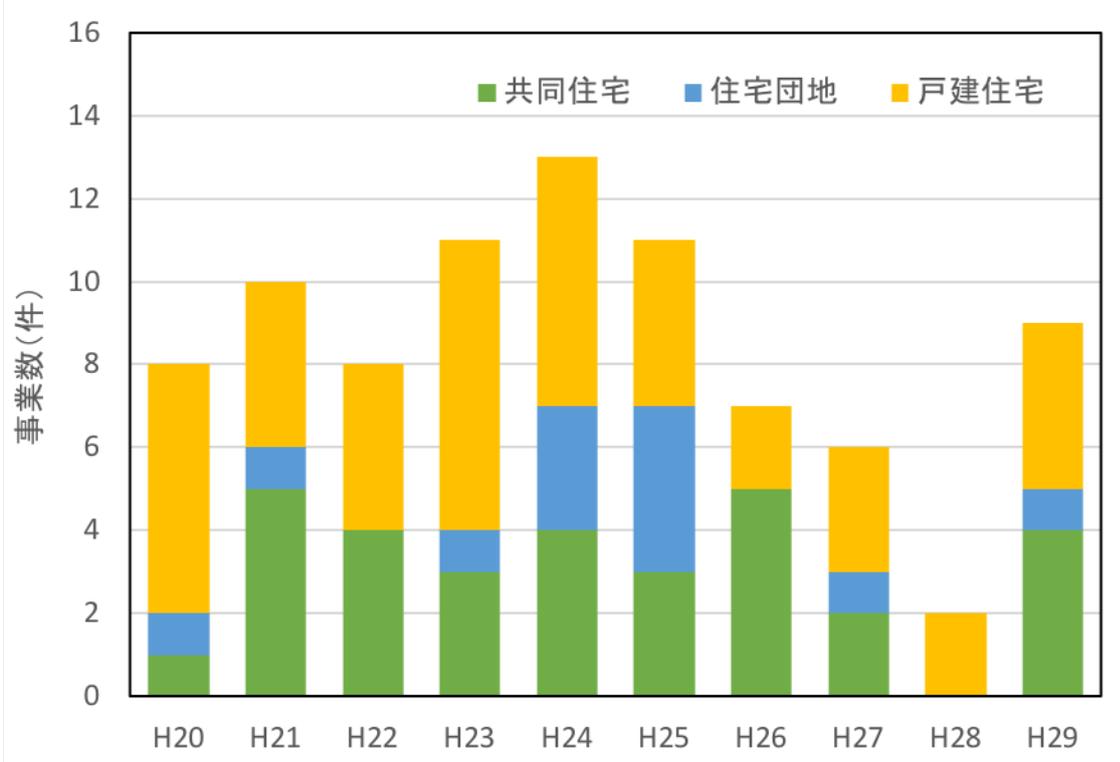


図 1.1.6 建物用途別の年度別採択件数（住宅）

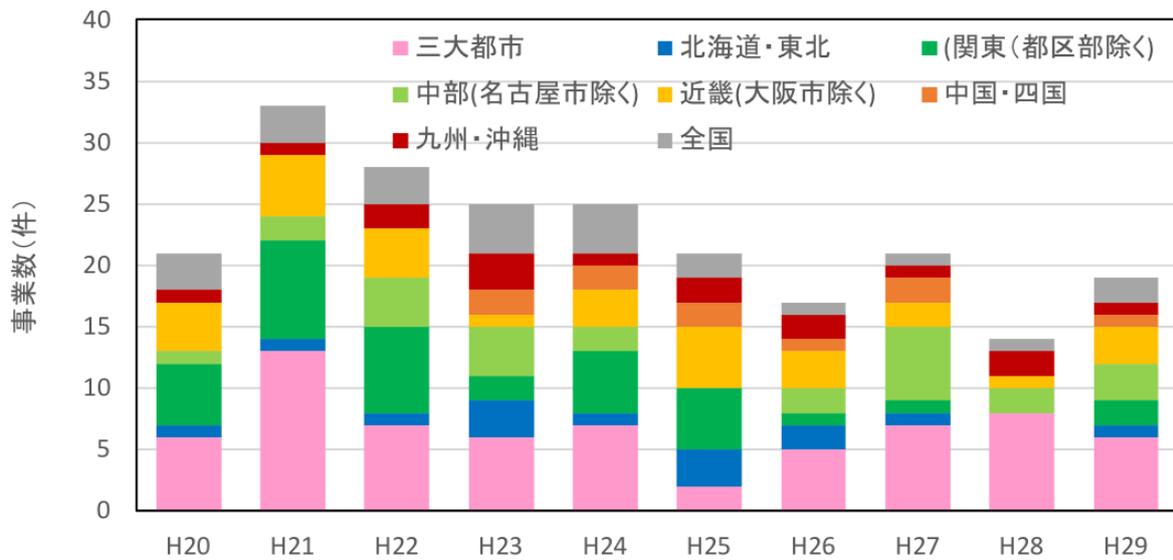


図 1.1.7 対象地域別の年度別採択件数（非住宅・住宅）

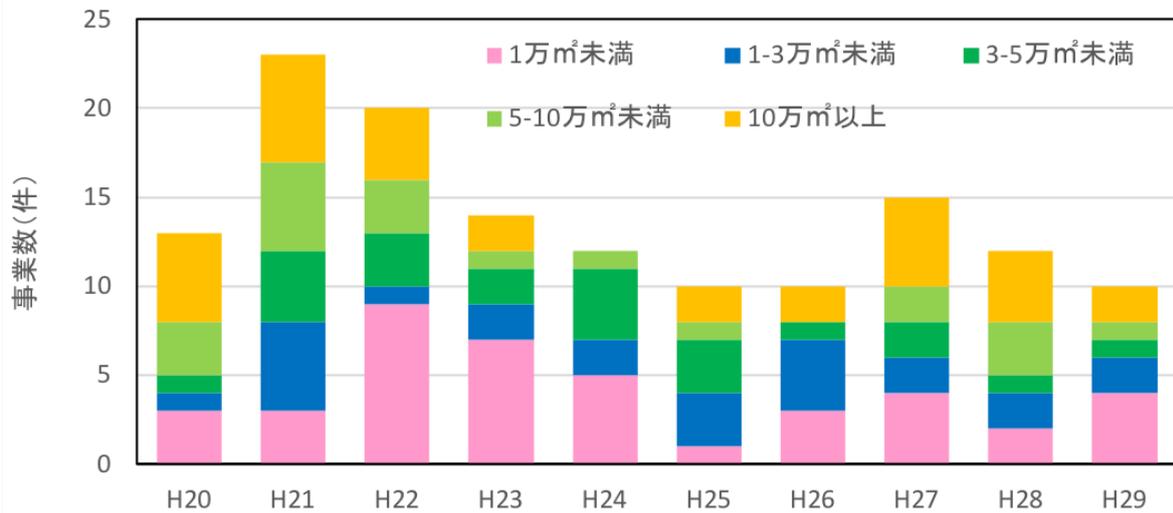


図1.1.8 建物規模別の年度別採択件数（非住宅）

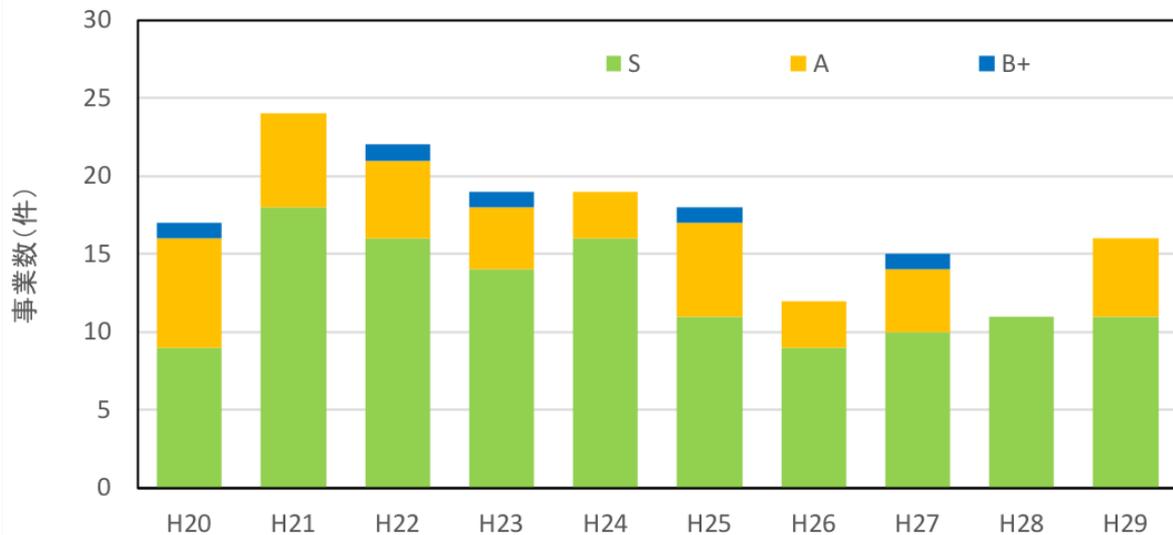


図1.1.9 環境性能(CASBEEランク)別年度別採択件数（新築）

